

永易至文さん

●特定非営利活動法人パープル・ハンズ事務局長

マイノリティーが暮らしやすい社会を目指せば
誰にとっても暮らしやすい社会になるはず。

「ひとりでも、同性ふたりでも、病があっても、性別を変えても、最後まで自分らしく暮らす」。永易至文さんが性的マイノリティーの老後の生活設計を共に考える活動をスタートして8年。制度を学び、当事者が情報を共有することで、「今できることがある」と伝え続けている。

●聞き手……………太田美由紀（ライター）

—近年、LGBTという言葉が広く認知され、性的マイノリティーについての社会的課題も取り上げられるようになりました。

永易 同性パートナーシップ、企業のダイバーシティ、あるいは企業が同性カップルに提供するビジネスやサービス、さらに教育現場などは、以前より熱心になってきたと思います。その一方で、現実の日々の暮らしの問題、老後についてはまだ語られていないのが現状です。私の問題意識は後者にあります。マイノリティーとマイノリ

ティーの関係性に意識的でありたいという思いから、私はLGBTではなく性的マイノリティーという言葉を使用しています。

1986（昭和61）年、私は大学入学を機に愛媛から上京しました。88（昭和63）年からゲイのコミュニティ活動に参加するようになり、今年52歳になります。1990年代はいわゆる「ゲイブーム」で、幅広い雑誌でポジティブに特集され、「自分と同じような人が世の中にいたんだ」ということが分かり、ありのままの自分を受け入れることができました。

コミュニティ活動も広がり、性的マイノリティーであることを前向きに捉えることができるようになった最初の世代だと思います。しかし、あれから四半世紀がたちました。25歳年をとれば、老いる中でいろいろな問題が生じます。同性のパートナーができて、その関係性は法律に規定がありません。結婚制度や子どもを育てるための制度もなく、基本的には多くの人が「おひとりさま」として高齢期を迎えます。

—具体的にどのような問題がありますか。

永易 例えば、病院で「家族ではないから」と締め出されることです。パートナーが意識不明となると、本人の意思を確認できません。死を迎えたときも、法的な関係がないため二人で形成した財産でも親族を優先しての相続となります。不動産も共同名義にできません。さらに、一人暮らしでの認知症や孤独死の問題もあり得るでしょう。

また、トランスジェンダーで手術をして性別を変えた方は、高齢期の医療や介護で

体を見られたり触られたりする場面に抵抗を感じるかもしれない。社会的抑圧の影響からメンタル不調や離職、転職が多く、高齢貧困も予想される。親族とは疎遠で、身寄りがないこともあります。こうした問題はセクシュアリティに関係ないものもありますが、行政や福祉に相談さえ躊躇する方も多いのです。

—そうした背景の中で「ライフプランニン

グ研究会」を立ち上げられた。

永易 2000年代からは自身のテーマとして「ゲイの老後」を掲げ、フリーライター・編集者として発信をしてきました。私自身も年を重ね、老・病・死の現実が見えてきて、「プライドを持って一生を生きるにはどうするか」と考えるようになったのです。さらに、ファイナンシャルプランナーの勉強をし、資格も取得しました。取材や勉強を重ねるうち、知識さえあれば法律上対応できることがあると気がつきました。

例えば病院で会わせてもらえない、連絡がこないという事態も、本人の自己決定が優先されますから緊急連絡先カードの携帯などが解決策となり得るでしょう。相続も遺言の作成が有効です。「生きづらい世の中だ」とぼやくだけでなく、それをどう越



Profile

●ながやす・しぶん●

1966年、愛媛県生まれ。出版社勤務を経てライター・編集者として活動する傍ら2010年に「同性愛者のためのライフプランニング研究会」をスタート。13年にはNPO法人パープル・ハンズを設立。同性愛者の老後にまつわる問題を中心に幅広く活動。セミナーの開催、執筆のほか、行政書士・FPとして相談も受ける。

えていくかを具体的に考えることが必要だ
と思い、始めたのが「ライフプランニング
研究会」です。立ち上げは2010（平成
22）年。社会の多様なセクターとつながる
ことを目的にゲストもお呼びしました。社
会福祉協議会の方、不動産業者、ケアマネ
ジャー、葬儀業者、お坊さんなど幅広く来
ていただきました。上野千鶴子さんにお越
しいただいたこともあります。私たちとし
ても、そういう機会を持つことで、社会の
人が一緒に心を合わせて考えてくれるとい
う経験ができました。閉じたままでは分か
らなかったことが、いろんな専門家と触れ
あう中でほじめていくような効果があった
と思います。また、「ライフプラン」と打
ち出すことで、性的マイノリティーにも老
病・死という人間の人生に関わる問題があ
ると再認識できた。そんな当たり前のこと
さえ忘れられていたのです。

—そして、2013年にNPO法人パー
プル・ハンズを設立されました。

永易 ライフプランニング研究会に人がた
くさん集まるようになり、仲間も増えたた
め、団体として立ち上げようという流れに

に学び、考えれば良いと思っています。

私たちが対象としているのは、行政の支
援対象になる貧困や困窮の一手前の人た
ちです。基本的には無駄な支出を減らし、
収入の1割は貯金をしよう、借金をしない
という話から、社会保険、社会福祉を学び、
それを十分に活用することまで、お互いに
学び合う自立生活運動というイメージが合
います。街の中で自分たちの暮らしを切り
拓いていく、そのために使える制度はどこ
でも使い倒そうという精神を自分たちの活
動の根底に置いています。

私たちは「かわいそうな要支援者」では
ありません。ただ情報を知らないだけで
から、学べばよいのです。それも上からの
押しつけではなく、当然知るべきことを知
り、それをどう活用するかはお互いに学び
合おうということです。そしていつか、自
分の情報が満たされたと思ったら、早く私
を用済みにしてほしい。それがこの団体の
特色です。でも、いつでも門を開いている
ので、また困ったことがあったらいつでも
来ていただければいいのです。

支援団体というより、社会教育団体かも
しれませんね。

なりました。50歳を目前に、人生後半への
折り返しを迎えた時期に設立となり、学ん
でいた行政書士についても、同じ時期に登
録しました。以来、今年で満5年となりま
すが、性的マイノリティーがつながるため
のNPOの運営、老後や同性パートナー
シップについての法律や現実的な知識に基
づいた確かな情報センターとして活動でき
ていると思います。

主な活動は、当事者、専門家による老後・
制度の勉強会、情報交換や仲間づくりの場
の提供、電話相談など、当事者向けの情報
提供を中心にした活動に加え、社会への発
信にも力を入れています。介護など高齢期
のセクターに関わる人たちに向けて啓発パ
ンフレットも作成しています。

当事者サポートの面では、行政書士とし
て公認証書などを作成していますし、一人
暮らしで見守りサポートを受けたい人がい
れば、これから取り組んでいきたいとも考
えています。講演や研修などにも要望があ
れば応じています。

—ライフプランニング研究会で取り扱う
テーマはどのようなものが多いのですか。

—この本を読んでいる保健師の皆さんに何
か伝えたいことはありますか。

永易 性的マイノリティーの場合、結婚、
出産、子育てなど人生のライフステージに
乏しい中で、人生の春夏秋冬がなかなか実
感できません。人生春、夏、夏、突然冬、
というイメージです。埋まらない人生を埋
めるものは人によって違います。ハード
ワーク、アルコール、恋愛やハードなセッ
クスなど人間関係へのしがみつき、場合に
よっては薬物依存のこともあります。その
結果、HIVや自死の問題も避けては通れ
ません。新宿2丁目では「ゲイの人は面白
い」と、女性にも人気だと言われています



（写真左より）永易さんの著書『同居・パートナ
ー生活読本』『同居・税金・保険から介護・死別・相続
まで（プロブレムQ&A）』『にじ色ライフプラン
ニング入門—ゲイのFPが語る〈暮らし・お金・老後〉』
『ふたりで安心して最後まで暮らすための本』

永易 3つの課題とよく言うのですが、1
つ目はお金が一生続いてくれるのかという
問題。2つ目は田舎の親をどう介護するか
という遠距離介護の問題。そして3つ目に、
親を見送った後、子ナシ・一人の自分の老
後はどうなるのかという問題です。

これらについてそれぞれが自分なりに考
えていかなければなりません。家族に伝え
ていない方が多いので、それを前提にどう
すれば良いかを考えます。私自身がすべて
の正解を持っているわけではないため、現
場から具体的な事例として事実の発掘を
行つた上で、「こんな情報もあんな情報も
あります、でも決めるのはあなたです。一
緒に考えていきましょう」というスタンス
で関わっています。相互に学び合うピア・
エデュケーション的な側面があります。

—モデルがない分、新たな方法を自ら考
えていかなければならない。

永易 さまざまなマイノリティーの方も同
様の悩みがあると思いますが、私たち性的
少数者は異性愛者から生まれてきましたの
で、親の暮らしはロールモデルにはなりま
せん。でも一人で考えるのではなく、一緒

が、面白くしなきややつていられないのが
一面の真理かもしれません。

産業界や政府がいうような、活躍したり
イキイキしたりしなくてもいいから、とに
かく最後までこの人生を全うしよう。その
ための役に立つ情報は一生懸命集めて提供
します。マイノリティーが暮らしやすい社
会は誰にとっても暮らしやすい社会です。
地域の健康問題に携わっておられる保健師
さんと何か連携できるのであれば、ぜひ一
緒に考えていきたい。保健師の皆さんにも、
ぜひ、性的マイノリティーについて学んで
いただければと思います。

小冊子

介護や医療、福祉
関係者のための

高齢期の
性的マイノリティ
理解と支援
ハンドブック

パープル・ハンズの
ホームページより無
料でダウンロードで
きる。送付可。

<http://purple-hands.net/pdf/handbook-web.pdf>